

# ドイツ語圏日本語学習者における内発的動機づけ —短期留学生を対象としたインタビューで語られた学習への 「楽しさ」からみる—

田村 知佳

学位取得年月：平成 23 年 6 月  
取得学位名：言語文化学博士  
学位授与機関名：大阪大学

【キーワード】 学習への「楽しさ」、ドイツ語圏日本語学習者、動機づけ、エピソード・インタビュー

## 【要旨】

本研究では、ドイツ語圏としてドイツ、オーストリア、スイスからの短期留学生に注目し、日本語学習に対する動機づけを研究したものである。そこで、先行研究として行われてきた量的調査の結果を踏まえ、ドイツ語圏からの短期留学生 7 名に質的調査としてエピソード・インタビュー (Flick 2002) を実施し、内発的動機づけから具体的なドイツ語圏日本語学習者像の可能性を描き出す事を研究目的とした。さらに、本研究では日本語以外の過去に学んできた言語学習経験も視野に入れ、他言語から得られる要因にも着目した。

まず、本研究では先行研究で明らかとなっていた、日本語学習を始める要因として注目されていた日本や日本語そのものへの関心から、学習への「楽しさ」として動機づけの中でも内発的動機づけに注目した。そして、動機づける要因を多層的なものとして捉え、その中でも「有能さ」、「自律性」、「関係性」といった要因を内発的動機づけを分析する視点として取り入れ、それらをもとに学習行為に至り、フィードバックを得る事で学習への「楽しさ」に至るプロセスのモデルを提示した。

本研究では 7 名の調査協力者にインタビュー調査を実施し、それを分析としてコード化、カテゴリー化し、各々の日本語及びその他の言語学習に関するストーリーを形成した。その上で、本研究のモデルをもとに 7 名のストーリーを解釈する事で、学習者像の一例としてヨーロッパとは全く異質な日本文化やその言語に魅力を感じ、他人と違った事に打ち込む事に「有能さ」を見出し、自律的に日本語学習に打ち込むことが評価される「関係性」を作り出している姿が描き出された。また、各々の調査協力者のストーリーから、「日本のポップカルチャー」、「大学における詰め込み学習」、「来日してから」といった共通のテーマを抽出し、学習への「楽しさ」の関連について 3 つの視点から横断的分析と考察を行った。その結果、いずれの項目についても学習への「楽しさ」として自分を成長させる「有能さ」が重要な役割を果たし、それを得るために自律的に周辺環境などを再解釈する事で「関係性」を独自に築きだしている事が分かった。

この結果をもとに、調査協力者にとって動機づける要因として学習への「楽しさ」の意味について、インタビューの中の調査協力者自身の説明から考察を試みた。その結果、学習への「楽しさ」が新しい事や難関への挑戦、学習成果の実感、今まで学んだ事を応用し独自に新たな事を発見できる事に深く関連している事が明らかとなった。また、調査協力者たちは単に目標に向かって打ち込むだけでなく、学習への「楽しさ」に注目する事で効率的に学習へと打ち込む原動力を得ているため、学習を開始また継続するために不可欠な要因である事が分かった。

この考察の結果から、本研究ではドイツ語圏における日本語学習者像の可能性として、常に「有能さ」、「自律性」、「関係性」から学習への「楽しさ」を感じ、内発的動機づけを中心に全体的な動機づけを高め、その事で学習者が打ち込んでいる行為が自分に合っているものなのかを確認する姿を示唆する事ができた。さらに、ここからはドイツ語圏学習者が自らを動機づける要因として周辺社会への自らの位置づけよりも自分自身の関心などを重視する可能性を指摘し、今後の動機づけを研究していく新たな視点を提案している。

(たむら ちか)